

フットサル実施要項

1. 日 時 11月9日(土)
2. 会 場 セガサミースポーツアリーナ
3. 主 管 公益財団法人東京都サッカー協会

4. チーム編成

- (1) 監督1名、コーチ1名、スタッフ2名、選手20名以内で編成する。監督・コーチ・スタッフは選手を兼ねることができる。
- (2) 各都道府県選手団から2チームまで参加することができる。

5. 参加資格

- (1) 本大会の参加資格は、下記の通りとする。但し各都道府県選手団役員(団長、副団長、総監督・総務)、監督、コーチ、スタッフはこの限りではない。
 - ①1979(昭和54)年4月2日から2004(平成16)年4月1日までに出生した者。
 - ②原則、2019(令和元)年5月1日からひきつづき当該都道府県に居住、または在勤・在学する者。
 - ③全日制高等学校の生徒は参加対象としない。
 - ④定時制または通信制高等学校、高等専門学校、各種学校の生徒は一般青年として参加できる。
- (2) 本大会参加者は、大会の趣旨および運営上の留意事項により、上記参加資格を有するものとし、日本青年団協議会正会員または各都道府県の大会窓口は関係団体と協議して参加者を選出または推薦することを原則とする。
- (3) 各都道府県選手団より2チームまで参加することを認める。
- (4) 参加者は医師の健康診断を受け、健康であることが証明された者とする。
- (5) 過去、次にかかげる大会(リーグ)に出場した選手の出場は認めない。
 - (ア) 国際競技会
 - (イ) 日本フットサルリーグ(Fリーグ)
 - (ウ) 全日本フットサル選手権大会(決勝大会)
- (6) 過去において、次にかかげるサッカー大会(リーグ)に出場した選手の出場は認めない。
 - (ア) 国際競技会
 - (イ) Jリーグ(J1リーグ、J2リーグ、J3リーグ)上記(5)(6)に類似する大会に出場した選手の本大会出場の有無は主催者が判断する。
- (7) 無資格の選手を発見したときは、当該チーム全体を失格とする。

6. オーバーエイジ枠

参加資格に、オーバーエイジ枠(以下、OA(1979(昭和54)年4月1日より前に出生した者の参加を一部認める))を設ける。OAが参加する場合は登録選手のうち2名まで認める。

7. 参加申込

締切期日をすぎた後の申込および変更は一切受け付けない。ただし、以下の場合はその限りではない。

- (1) 本人が病気、けがで入院するなど参加不可能の場合、医師の診断書を、10月18日(金)必着で大会本部に提出すれば参加登録は抹消する。なお、病気、けがなどの理由で参加登録抹消者が発生し、チーム全員の参加が不可能となった場合は、チーム全員の参加登録を取り消す。
- (2) 団体競技種目で参加登録抹消者(理由に関わらず)が発生した場合、参加者の入れ替えを認める。また、入れ替え登録は10月18日(金)必着で大会本部へ所定の様式にて郵送で申請し、なおかつ種目別監督会議での報告を義務とする。入れ替え後の氏名はプログラムには記載されない。なお、書類に不備がある場合は入替登録を認めない。なお、入れ替え登録した参加者の大会参加費及び大会運営費、保険料は発生しないものとする。

8. 競技規則

当該年度日本協会制定の『フットサル競技規則』による。試合時間については競技方法2項による。

9. 競技方法

(1) 大会形式は、会場と出場チーム数によって決定する。詳細は監督会議等で発表する。

(2) 試合時間は、以下のとおりとする。

A. 1次リーグ・2次トーナメント方式

1次リーグは、20分（10分ハーフ）タイムアウトなしのランニングタイム（ハーフタイムのインターバル2分）とする。時間内で決着がつかず同点の場合、延長戦・ペナルティーキック（PK）方式は行わず、引き分けとする。

2次トーナメントは、20分（10分ハーフ）タイムアウトなしのランニングタイム（ハーフタイムのインターバル2分）とする。時間内で決着がつかず同点の場合、6分（3分ハーフ）の延長戦を行う。尚決着のつかない場合は、ペナルティーキック（PK）方式により勝利チームを決定する。

B. 全チームトーナメント方式

20分（10分ハーフ）タイムアウトなしのランニングタイム（ハーフタイムのインターバル2分）とする。時間内で決着がつかず同点の場合、6分（3分ハーフ）の延長戦を行う。尚決着のつかない場合は、ペナルティーキック（PK）方式により勝利チームを決定する。

(3) グループリーグにおける順位決定方法は、勝3点、引分け1点、負0点の勝点により、勝点の多い順に順位を決定する。尚、2チーム以上のチームが、同勝点の場合、以下の順序で順位を決定する。

①当該チームの対戦結果の総勝点数

②当該チームの対戦結果の総得失点差

③当該チームの対戦結果の総得点数

④グループ内全試合の得失点差

⑤グループ内全試合の総得点差

⑥下記に基づく警告、退場のスコアがより少ないチーム

[1] イエローカード 1枚 1ポイント

[2] イエローカード 2枚によるレッドカード1枚 3ポイント

[3] レッドカード 1枚 3ポイント

[4] イエローカード 1枚に続くレッドカード1枚 4ポイント

⑦抽選

ただし、試合が、一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止となった場合（不戦敗等）には、その帰責事由あるチームは0対5で敗戦したものとみなす。

(4) ベンチに着席できる人数は、参加申込書及びフットサル大会登録票により予め大会に登録されており、試合開始前のメンバー提出用紙に記載されている交代選手7名、監督1名・コーチ1名・スタッフ2名の計11名を上限とする。なお、事前に登録された都道府県選手団役員2名は、監督・コーチ・スタッフの代理としてベンチ入りすることができる。

(5) ピッチ（試合コート）到着の対応について下記のとおりとする。

試合開始時に最小5人の競技者がいる状況において、試合開始以前に提出されるメンバー表に記載され、かつ大会登録選手であり、出場資格を有すると確認されている競技者が、試合開始時に不在の場合、以下のとおりとする。

①試合開始（前半キックオフ）後、ピッチに到着した場合

その競技者は、前半は出場できず、ベンチに入ることもできない。試合開始から後半開始までの間にピッチに到着し、ハーフタイムの時間内に審判の承認を得ると後半開始時よりその試合に出場することができ、ベンチに入ることもできる。

②後半開始（後半キックオフ）後、ピッチに到着した場合

その競技者は、その試合に出場することはできず、ベンチに入ることもできない。

(6) 試合球は、日本協会検定球のフットサルボールを使用する。

(7) ユニフォーム

①ユニフォーム（シャツ・ショーツ・ソックス）は、原則としてフィールドプレーヤー・ゴールキーパーとも1着準備・携行すること。（2着準備・携行することが望ましい。）また、選手全員が携行及び着用するユニフォームは、フィールドプレーヤー・ゴールキーパーのそれぞれすべ

てが同色・同デザインのものとする。ただし、選手全員が携行及び着用するユニフォーム2着目の準備が困難な場合、ビブスで対応する。

- ②ゴールキーパーのユニフォームについては、フィールドプレーヤーとしてプレーしていた競技者がゴールキーパーとしてプレーする場合は、ゴールキーパーのユニフォームと同色・同デザインであることを基本とする。また、事前に登録された色彩のゴールキーパー及びフィールドプレーヤーのユニフォームの中から選択して着用することもできる。但し、その試合で着用されるそれぞれのフィールドプレーヤーおよび相手ゴールキーパーの色彩と異なり、試合前のマッチコーディネーションミーティング（審判立会いの打合せ）において承認された場合に限り着用を認められる。また、競技者が着用するユニフォームにはその競技者自身の番号を付けなければならない。尚、ケガや退場処分等の突発的な諸事情により、交代要員のゴールキーパーが不在でかつ準備が整っていない場合、主審の判断により、ゴールキーパーのユニフォームを前述以外のユニフォームで代用することができる。
- ③ユニフォーム（ゴールキーパーのユニフォームを含む）のうちシャツの色彩は、審判員が通常着用する黒色（紺を含む）と明確に判別し得るものでなければならない。尚、ショーツ・ソックスについては、この限りではない。
- ④ユニフォームシャツの袖から出るアンダーシャツ、ショーツの裾から出るスパッツ、タイツについては、ユニフォームの色と同色のものに限り着用を認める。
- ⑤ユニフォームに表示することができる内容は以下の通りとする。

区分	必須項目	任意項目
シャツ	選手番号（背）	チーム名、チームエンブレム、選手番号（胸）、選手名（背面のみ）、製造メーカー名（ロゴ）
ショーツ		選手番号、チームエンブレム、製造メーカー名（ロゴ）
ソックス		チームエンブレム、製造メーカー名（ロゴ）

※ 選手番号は、フットサル大会登録票に記載され、明確に判別しうる選手固有の番号を服地と明確に区別し得る色彩で、かつ判別が容易なサイズのものとし、シャツの背中へ付けなければならない。なお、シャツ前面、ショーツ前面の右側または左側への選手番号取り付けは任意とする。（番号は、1～99番までの整数とし、0は認めない。）

※ 企業名や商品名をチーム名及びチームエンブレムとすることは認めない。また、登録されたチーム名と異なる表示の掲示や、各国代表チーム及び有名クラブチームのレプリカユニフォーム（エンブレム、広告表示）の使用は認めない。ただし、これらの表示を上から別布で覆ったユニフォームは認める。

- (8) シューズは、体育館用シューズとする。床面を痛めるスタッドの付いたシューズや床面にマークをつけるシューズは認められない。接地面がアメ色、白色または無色透明のものを使用する。（注/当大会では、メーカーが「ノン・マーキング」として販売しているものであっても、接地面がアメ色、白色または無色透明のもの以外は使用できない）
- (9) レガース（すね当て）を必ず着用しなければならない。
- (10) 選手の装身具（ネックレス、ピアス、指輪等）についてはすべて取り外さなければならない。

10. 懲 罰

- (1) 大会規律・フェアプレー委員会を設置し日本協会懲罰基準に従い規律問題について処理する。
- (2) 大会において退場を命じられた選手は、次の1試合に出場できず、それ以降の処置については大会規律・フェアプレー委員会において決定する。
- (3) 大会期間中、警告を2回受けた者は、次の1試合に出場できない。

11. 表 彰

- (1) ベスト4まで表彰し、賞状を授与する。
- (2) メダルは、1位チームに金メダル、2位チームに銀メダル、3位チームに銅メダルをチーム全員に授与する。
- (3) 1位チームにはカップ、2位及び3位のチームには楯を授与する。

12. 東日本大震災に伴う参加資格の特例について

震災による被害状況及び影響等を考慮し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域県（以下、「特例対象県」）とし、前記参加資格を満たした上で、当該被災地域県からの避難等により、2011（平成23）年3月11日以降移動せざるを得なかった場合、避難前に在住していた県から参加することができる。ただしこの場合、2011（平成23）年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住していた者であることを当該県選手団長が証明する書類を提出することを条件とする。なお、書式については別途指定する。

13. その他

- (1) 参加チーム数により各項を変更することもある。
- (2) 基準要項、体育の部要項に定めるところによる。
- (3) 参加チームは、競技の進行が円滑にできるよう別紙「大会参加の注意事項」を遵守すること。別紙は諸連絡等で連絡する。
- (4) 参加者は、大会本部が指定した旅行業者を通じて航空券や乗車券及び宿舎を申し込む。ただし、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県は関東近郊のためこの限りではない。また、沖縄県は指定旅行業者を通じ航空券と宿舎を併せて手配することができないため、宿舎のみ指定旅行業者により手配する。
- (5) 監督・コーチ・スタッフが2チーム以上を兼務する場合でも支払うチーム参加費に変更は無い。
- (6) 記載のない内容については主催者で判断する。



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター